

## 「愛羅武勇 パンチ IN ジョイントコンサート」

ジョイントコンサート。運営学年（基本的にロータス3年目）にとっては他の団に遅れをとってはならないと一層気合が入るロータス夏の一大イベントである。演奏もさることながら、演奏会後の打ち上げにも力が入る。ましてやホスト（地元岡山で演奏会を開催する）になった年の運営学年は客席を満員にするべくPRを行ったり、宿舎の手配等々、別の面でもかなり忙しい。

私が運営学年（32期）のときにはホストとして岡山シンフォニーホールでジョイントコンサートを行った。相手は上智大学と広島大学。とくに広島大学には28期のジョイント（広島開催）で大敗（特に打ち上げ）したらしく、広島大学とのジョイントを経験した先輩方もかなり気合が入っていた。合同演奏の客演指揮者は大御所“近藤安介”先生、曲目は「枯木と太陽のうた」である。常任指揮者の上月先生より、「ロータスで以前、近藤先生の指揮で「枯木～」を演奏したことがあって、その時には入りの音がとれずうまくいかなかった。」と聞いていて、私はかなり不安になっていた。というのも今回の合同演奏の練習は前々日と前日の2日間のみだったからである。

〔事実、練習中、近藤先生は各団の指揮者に幾度となく「君たちはちゃんと練習やってたのかあ～!!!」〕

このような状況で、同期が8名と少ないためベースのパートリーダーをやっていた私も「一丁、気合を入れない」という気持ちになるのはごく自然なことだった。何か気合を入れなければならない。ひと目でわかる「パンチパーマ」をかけることにした。岡山大学前の東西通り沿い（当時のハイテクセガのとなり）にあるパーマ屋に入った。ツーんと匂ってくる初めてのパーマ液、くるくる巻かれる髪、新鮮で楽しいひと時だった。店を出て、目の前で信号待ちをしているバスを見ると高校生と目が合った。瞬間、下を向いて目をそらす高校生。その後、部長の林と飯を食おうと長崎ちゃんめんに入った。ニヤニヤ興味深そうにこちらをみるヤンキー数名。パンチの私とヤンキー林。なかなかいい勝負だった。強くなったような気もしたが、やはり世間の風は冷たかった。嶋大輔の歌「男の勲章」に「氷のように冷たい世間の風が・・・」とあるがまさにそんな感じ。

いよいよ上智と広大を「お出迎え」する朝が来た。白いスーツに白いヨットシューズ（お金がないのでエナメルは買えず）で決めた私、前日にスカウトした一年でトップの門脇とバリトンの石山はアロハもどきのシャツに黒サングラス、なかなかいい感じ、（伝説の？）ヤンキー軍団誕生だ。4メートルくらいの紫色の大きな旗もなびいている。ベース2年の斎藤に「愛羅武勇」「卍武闘派」と旗の裏表に書いてもらった。門脇と石山の手には鉄パイプにこれまた赤い時で「血祭り」「×××（ちょっと書けません）」と書かれた旗が舞っている。なぜか私の手には麦藁帽子が3つ。上智と広大が来る前に岡山駅西口にロータス整列。この異様ないでたちの集団を遠巻きにする一般の方々。いかにも学生という私服姿のロータスメンの中、（勘違い？）ヤンキー軍団。

〔大阪の実家へ帰省する途中の、（大好きだった）清心グリー3年、通称「真由美」様に会ったが思いっきり他人のフリをされてしまった。（かなりショック!）〕

そんな中、上智、広大が順次到着、一斉に湧き上がる「帰れ!」「帰れ!」「帰れ!」「帰れ!」「帰れ!」。唾然とする上智、広大。してやったりの我々ロータスメン。駅西口前広場を完全制圧。「一発かませたぜ!」。最後に各団のベースのパートリーダーへ（友好の印？）麦藁帽子を手渡し、がっちり握手。盛り上がったお出迎えは（ヤンキー軍団を除いて何事もなく？）終了した。〔ヤンキー軍団は手招きする警察官の方へ・・・〕

〔合同演奏はバリトンが走ってぶち壊し、舞台の上で沈黙する近藤先生。レセでも「今日の講評は無し。」と短く挨拶された近藤先生。ホントにご迷惑をおかけしました。〕

〔打ち上げでは、達成感、解放感やらで訳がわからなくなり、岡山大学校内を裸で走り回る32期役員（林、平木、小竹、石丸）や三島先輩、山下先輩、上智、広大の面々。このとき初めてビール大瓶を一気飲みした。湧き上がってくる炭酸が心地よかった。〕

真っ裸 パンチパーマで 一気飲み 超気持ちいい ロータスの味